

## 「爲」の語法

高田 友

「みなす（見做す）」は「見て」といふことになす（する）」の意なり。「本書を名作と見做す」といへば、「本書を見て名作といふことになす」なり。

この類に「思ひなす」「言ひなす」「聞きなす」あり。「なす」は漢字を宛つれば「成す・爲す」に外ならず。

「思ひなし」か、枝野さんの顔は泣いてゐるやうだつた」といふ。この「思ひなし」を大方は、「思ひ無し」を宛て、「思ひ違ひ」の意に解するが常ならん。

さならで、「思ひなし」は「思ひ爲し」の謂ひなり。「思ひてさなりといふことにしたり」にして、現代語にすれば、むしろ「思ひ過し」といふが當を得たらん。「我が勝手なる推測ならんか」と譯するを得べし。

「思ひ無し」を宛てて「思ひ過し」と解したる向きは、結果的に正鵠を射たりといふべきか。

「言ひなす」は「言つてさういふことになす」の意。これを用ゐたる歌、新古今にあり。

後の世を嘆く涙と言ひなしてしほりやせまし墨染の袖

出家の戀の歌なり。「後世ごせの我が身如何ならんと嘆く涙と言つてさういふことにして（人を偽つて）、實は戀ゆゑの涙に濡れたる黒衣の袖を絞らんか」と歌ひたるなり。出家の身ゆゑ、戀をするは許されざるに、未だ悟道なくして戀に落ちたるを嘆きてあり。

「後の世」は「後世」として、「ごせ」と音讀す。「來世」の意なり。

これを現代人は「こうせい」と讀みて、「未來の世・未來の人々」の意に用ゐるが、現代中國語にても、兩の意を有す。但し、發音はいづれも *houshi* なり。

「ごせ」は吳音。「こうせい」は漢音。佛教にては吳音を用ゐるが常なり。

「聞きなす」は源氏に用例あり。「聞いてそれと思ひ込む」と譯してむ。

「むなしく聞きなしたまはましかば、人笑はれにや（紅葉賀）」

「むなし」は「死にたり」の意なれば、「人の言を聞きて、かの人死にたりとなしたまはんに、他の人々に笑はれでやあるべき」と言ひたるなり。

現代中國語の基本單語に「視爲(shiwei)」あり。「視てさなりと爲す」にて、宜<sup>むべ</sup>なるかな、これぞ「みなす」の語源なり。但、「看做(kanzuo)」は宛字ならむと思ひきや、豈圖らん、中國語辭典を検索すれば、別儀「看做」の語あり、これまた、「みなす」の意なりと。「做」はほぼ英語の do または make の意にして、「爲」の類語なりといふを得ん。

同じく中國語に「以爲(yiwei)」あり、think の意なり。漢文にては「おもへらく」と訓じ、古代より存するの語なり。

元來は「我以汝爲賢」の如くに用ゐ、「我、汝を以て賢と爲す」と訓ず。「以」は英語の as for の如くに、主題を提起せるなり。As for you, I think clever. と逐語譯するを得べし。

右の文にて、「以」は目的語「汝」を取るに由り、英文法用語を借るれば「前置詞」なり。英語と同じく前置詞が目的語を失へば「副詞」と化す。

I ran my hand up the cat's back.

「猫の背の上、手を撫で上げたり」

上の文にては、up は the cat's back を目的語を取るによりて前置詞なり。

I ran my hand up.

「手を撫で上げたり」

然るにこの文にては、up は目的語を缺くがゆゑに副詞なり。

中國語・漢文の場合も同じ理にて、「我以汝爲賢」の「汝」をことさらに言ふの要なき時には、「我以爲賢」と言ふを得。この場合には、「以」は目的語なきがゆゑに副詞なり。而して、「以爲」は一つの動詞の如くに解せらるるに至り、本朝にては「われ、おもへらく、賢なり」と訓ず。「我以爲汝賢」(我おもへらく、汝賢なりと)の如く、I think that you are clever. の構造ならしむるも可なり。

別儀、「認爲」あり。renwei (レンウェイ)と發音し、「以爲」と同義なり。元來は「我認汝爲賢」と用ゐ、「我、汝を認めて賢と爲す」と訓ず。「認」を「おもふ」と訓じたりとも大過なしといふべければ、まことに是れ、「思ひ爲す」に相ひ通ずるあり。かくて、「認」の目的語を外せば、「我認爲賢」となり、「我、認<sup>おもへらく</sup>爲、賢なりと」。さらに転じて、「認爲」の後に節を入れて、右の以爲と同じく、「我認爲你賢」(我認爲、你賢なりと)なる語法もあり。

你(ni)は現代中國語にて「汝(you)」の意。

また、「我認汝爲賢」と「我認爲賢」とを比較すれば、「以」の場合とは違ひて、前者の「認」は他動詞、後者の「認」は自動詞といふべし。他動詞s自動詞の對立は、前置詞vs副詞の對立に似たるものあり。

「みなす」「いひなす」「おもひなす」の類は、中國語にかくも似たる語法あれば、漢語の訓より生じたるに相違なし。元來の大和言葉にはあらずといふべし。

現代中國語にては「把」を「以」の意に用ゐること少なからず。

「別把我視爲朋友」

「別」は「不要」(Don't)の意なれば、「我を以て朋友と視爲すなかれ」と訓ずべし。

Don't regard me as your friend.とならんか。

さて、現代中國語にては、「爲」(wei)の字の聲調は、第二聲(後ろ上がり)の場合と第四聲(後ろ下がり)の場合とあり。前者は「なす・す(る)・なる」の意に用ゐ、後者は「ため」なり。

「大臣爲帝所嗤」は二通りの訓讀あり。一は、「大臣、帝の爲に嗤はる」、二は「大臣、帝の嗤ふ所と爲る」。いづれも意は變る所なしと雖も、古代中國人にとりて、この「爲」はいづれなりしやと訝らるる所なり。

現代中國語にもこの語法は残りてあり。而して、この「爲」は第二聲にて讀む。然則、この「爲」は「なる」の意にて、「大臣、帝の嗤ふ所と爲る」と訓ずべし。英語に逐語譯すれば、The minister became what the emperor laughed at.とすべし。what 以下は「帝の笑ひたる對象」の意なれば、眞にその理のよく通ずる所なり。

而して、「大臣帝の爲に嗤はる」との訓は、語源の誤解によりて生じたる所なりと斷ぜざるを得ず。

また「何爲」を「なんすれぞ」と讀む。反語を作る疑問詞にして、How come SV? 又は How can it be that SV? に相當するが、大略 Why-----?と譯して大過なかるべし。

「子貢曰、何爲其莫知子也」(論語)を「子貢曰く、何爲れぞ、其れ、子を知ることを莫からんと」と訓み、「一體どうして(なぜ)、師を知る者(事)なしと言ふことができようか」と解す。「先生のごとは誰でも知つてゐますよ」と追従したるなり。How can it be that there is no one who doesn't know of you?なり。

一方、現代中國語にては、「爲何」なる語あり。「爲」は for、「何」は what。「何の爲にて」なるを以て「なぜ」の意に轉ず。奇しくも英語にても亦、for what の why の意に用ふる。漢文には現代中國語とややもすれば異なる語順になるの條あり。特に疑問詞は文頭に出づるの傾きありて、「爲何」(何の爲に)の「何」を文頭に置きたりけん。而して、現代中國語の「爲何」の「爲」は第四聲に發音するの事實あり、さは「ため(に)」の意なること明らかなり。「何の爲に」といへば、すなはち「なぜ」の意となる。

すなはち、漢文にても、「何爲」を「何爲すれぞ」と訓むは、「ため」の意なる「爲」を「なす・す(る)・なる」の「爲」なりと本朝古人の誤解して、かかる訓讀を始めたるに相違なし。

さらに愉快なるあり。

「何」は現代中國語にては「什麼」(シエンマ)といふ。而して、「爲何」は「爲什麼」となる。for what すなはち why の意なり。

一方、英語にては、Why not……?なる語法あり。「なぜしないのか」より轉じて「しなうか・しなさい」の意となる。中國語にて「爲什麼不」といふは不思議に理を同じくしたるなり。「爲什麼不學習」(ウェイシエンマプーシユエシー)は「なぜ勉強しないの」すなはち「勉強しなさい」の意になること、日本語と變るなし。Why not study?なり。

斯の如く、日本語・英語・中國語に同じ發想あるの儀、興を引かるる所以なり。

さらに、中國語には存せじと思はるれども、和歌には「吹き爲す」の例もあり。「吹きて〜と爲す」の義。

俊成卿女の歌ひて曰はく、

鴉にはの海春は霞の滋賀の浪花と吹きなす比良の山風

「波頭」を「浪の花」といふは中國語「浪花」より入りて、本朝にても屢々和歌になん歌はるる。波頭の白き、波に花咲きたると看做したるなり。

この歌にては、「鴉の海」は琵琶湖の謂ひ。比良の山風が「滋賀の浪」を吹きて花とこそは爲したりけれ、の義にして、「吹き爲す」も「みなす」「おもひなす」の類とは知るべし。

もし、この「吹き爲す」、本朝独自の言ひやうならば、あるいは「みなす」「いひなす」も必ずしも中國語起源にあらずとの解釋も成り立ち得べし。なほ、中國語辭典には「吹爲」「吹做」など、これに類する語を見出すこと能はず。

(令和三年十一月二十八日受附)